

その先の向こうへ

GOING FURTHER

# CORPORATE REPORT

コーポレートレポート

## 2014

## お読みいただくにあたって

五洋建設グループは、環境および社会活動をお知らせする目的で、毎年「CSR※レポート」を発行しておりますが、今年度より「コーポレートレポート」とし、幅広いステークホルダーの皆様へ向けた総合的コミュニケーションツールとして作成いたしました。

今年度の冊子レポートでは、経営活動そのものを CSR 活動として位置付け、従来の「CSR レポート」の内容に加えて、経営ビジョンや主要業績指標なども掲載しています。また、ステークホルダーのご意見を当社の事業活動に反映することを目的に、早稲田大学の柴山知也教授から当社へのご意見や今後期待する活動についてメッセージをいただきました。

ウェブ版は従来通り、情報開示・説明責任のためのツールとして、より詳細な CSR 活動の情報を網羅的に掲載しています。

ぜひご一読いただき、当社グループに対するご理解を一層深めていただければ幸いです。

※ CSR : Corporate Social Responsibility の略で、一般的に企業が社会や地球環境に対して果たすべき社会的責任のことをいう。

Web トップページ ▶ 会社案内 ▶ CSR への取り組み  
<http://www.penta-ocean.co.jp/company/csr/index.html>

対象期間	2013年度（2013年4月1日～2014年3月31日）を対象にしています。ただし当該年度以外の内容も一部掲載しています。
対象範囲	原則として、当社グループを対象にしています。
参考ガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」 GRI「サステナビリティ・レポートニング・ガイドライン（第4版）」

## 経営理念

### 社会との共感

高い品質の建設サービスを通じ、顧客や取引先、株主や地域社会に貢献し、信頼されることで持続的に発展し続ける企業を目指します。

### 豊かな環境の創造

豊かな自然環境を後世に伝えていくことは社会生活、経済活動の礎であるということ強く認識し、地球環境に配慮したモノづくりを通じて、安全で快適な生活空間と豊かな社会環境を創造します。

### 進取の精神の実践

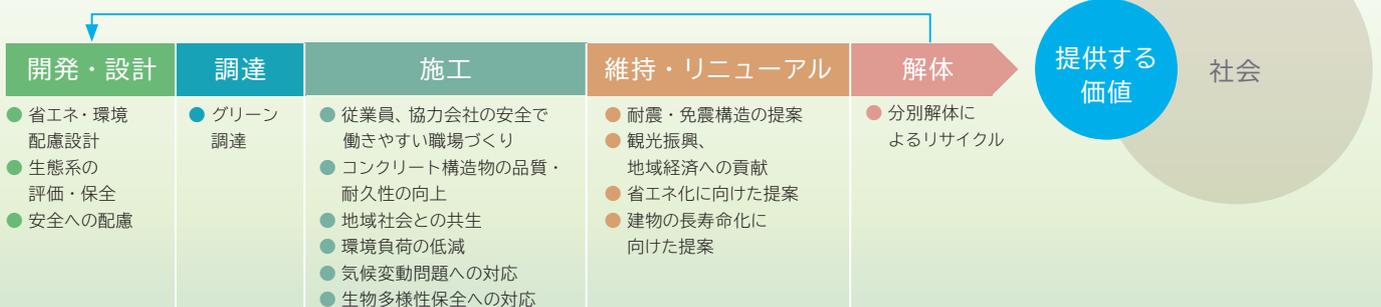
顧客や社会のニーズに対し、実直に応えるとともに、企業を取り巻く社会の変化に対して常に進取の気概を持って挑戦します。

## その先の向こうを見据えた“モノづくり”

当社グループは、CSR基本方針に定めるとおり、「良質な社会インフラの建設こそが最大の社会貢献」と考え、あらゆるステークホルダーの期待や要請に応え、社会に対して提供する価値を最大化していくことを目指しています。

社会の期待に応えるために、バリューチェーン全体で持続可能な社会の発展に貢献するモノづくりを行い、提供する価値を最大化できるよう努めています。

また同時に、安全面や環境面に配慮し、法規制に対応した責任あるモノづくりを行っています。



コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの徹底、リスクマネジメント、ステークホルダーとの対話など

## 中期ビジョン

### 海と大地の“創造企業”

私たちは、臨海部ナンバーワン企業として魅力ある空間創造を究め、提案型企業として顧客満足と社会貢献を追求します。

### 確かな品質を約束する“こだわり企業”

私たちは、確かな技術に裏づけされた高い品質と安全なモノづくりを通じて、顧客と社会の信頼を築きます。

### 子供たちに豊かな環境を遺す“未来企業”

私たちは、企業活動を通じて良質で豊かな環境を創造し、次世代に確かな夢を、希望を、可能性を伝えます。

## CSR基本方針

五洋建設グループは、「良質な社会インフラの建設こそが最大の社会貢献」と考え、安全、環境への配慮と技術に裏打ちされた確かな品質の提供を通じて、株主、顧客、取引先、従業員のみならず、地域社会にとって魅力ある企業を目指します。

### 誠実な企業活動

事業活動においては、法令を遵守し、社会的規範・倫理を尊重することはもとより、常に誠実な姿勢で行動します。

### 環境・自然との共生

- 環境に配慮したモノづくりと環境技術の開発に努め、地球環境の保全に貢献します。
- ハード・ソフト両面の防災技術の開発に努め、災害に強い生活空間の建設に取り組みます。
- 危急時には迅速な支援活動を行います。

### 人間尊重

- 従業員の個性が尊重され、能力が十分に発揮できる働き甲斐のある職場環境の実現に努めます。
- 従業員のみならず、関係するすべての人々の人権と多様性を尊重します。

### 社会とのコミュニケーション

広くステークホルダー(株主、顧客、取引先、従業員、地域社会等)とのコミュニケーションを心がけるとともに、適切で公正な情報を開示し、説明責任を果たします。

## 五洋建設グループを取り巻くステークホルダー





## 10年目を迎え CSR活動の原点に立ち返る

代表取締役社長

清水 琢三

五洋建設グループのCSR活動は、2005年4月に「良質な社会インフラの建設こそが最大の社会貢献」とする基本方針のもと全社で取り組みを始めてから、今年で10年目という節目の年を迎えます。CSRはいまや企業活動を行う上で最も基本的な考え方であり、拠りどころとなっています。

さる3月30日、沖ノ鳥島で重大な事故が起きました。お亡くなりになられた7名の方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、関係者の方々をはじめ、多くのステークホルダーの皆様にも多大なご迷惑・ご心配をおかけいたしましたこととお詫び申し上げます。

私たちはこの事故を教訓として、原点に返って現場力・技術力を高め、確かな安全と品質でお客様の信頼に応え、社会に貢献する企業でありたいと、決意を新たにしております。

当社グループはCSRの基本を再認識し、改めて活動の原点に立ち返ります。

私たちは一人ひとりの仕事に対して責任を持っていることをしっかりと認識し、当社グループは企業活動を通じて社会への責任を果たしてまいります。その結果として、多様なステークホルダーにとって魅力ある企業に成長できると認識しています。

社員一人ひとりがそのような意識を持って自分の持ち場でできることを実践するといった自然体の活動がCSRの原点と言えます。

具体例を挙げますと、地域・環境との関わりとして、清掃ボランティアを通じた地域社会への貢献があります。顧客やエンドユーザーとの関わりでは、当社の強みを活かせる臨海部における環境関連技術の開発があり、自然との共生を目指した護岸、人工海浜、干潟などの建設に役立っています。

また、株主・投資家との関わりを重視し、経営の透明性を高め、企業の姿勢・方向性を理解していただくため、適時適切な情報開示に努め、積極的なIR活動を行っています。

従業員や協力会社との関わりにおいても、地道な安全衛生環境活動に取り組み、快適な職場づくりに取り組んでいます。

今年度から新たな中期経営計画(2014～2016年度)がスタートしました。幸い、建設業を取り巻く事業環境は、国内外ともに好調が続くと見込まれており、当社グループは名実ともに「臨海部ナンバーワン企業」を目指してまいります。

これからも当社グループは、良好な社会インフラの建設を通じて社会的使命と責任を果たすとともに、CSR活動に積極的に取り組み、企業価値の向上に努めてまいります。

ステークホルダーの皆様から忌憚のないご意見、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2014年7月

# PENTA-OCEAN SINGAPORE

開設50周年



## シンガポールの 発展とともに

1963年、当社はシンガポールにおいて、一つの岸壁工事を受注しました。ここからシンガポールでの活動がはじまり、約50年。この間に、大型土木工事や高層建築工事など、数多くのプロジェクトを手掛けてきました。

この特集では、半世紀にわたるシンガポールにおける当社の歴史と、今後さらなる発展に向けて進行しているプロジェクトの一片を紹介します。



- ① チュアス埋立
- ② アートサイエンスミュージアム
- ③ MRT 東西線 EXPO 駅
- ④ ジュロン造船所
- ⑤ VivoCity
- ⑥ シンガポールポストセンター
- ⑦ パシルバンジャン・コンテナターミナル第1期
- ⑧ ION オーチャード&オーチャードレジデンス

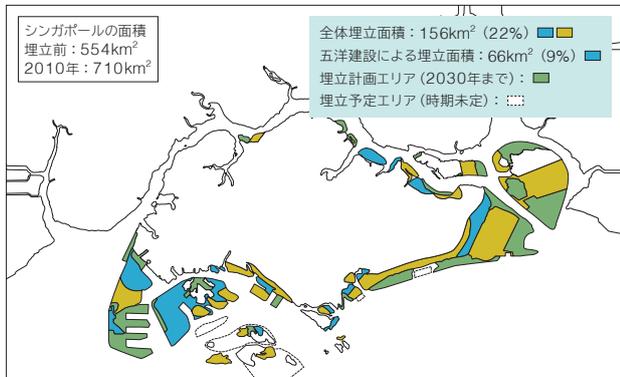
# 大地を造り、 経済発展に寄与した50年間

## 政府によって 推し進められてきたインフラ整備

東南アジアに位置するシンガポールは、1965年にマレーシア連邦より独立した新しい国家です。天然資源や主要な産業に乏しいシンガポールでは、経済的な自立を果たすため、外資の積極導入とそのための社会インフラ整備が進められてきました。港湾や空港の整備、工業用地や住宅地造成などを通じて「アジアのハブ」として、目覚ましい発展を遂げてきました。

## 五洋建設とシンガポールの半世紀にわたる歴史

当社は独立前の1963年に「ジュロン造船所ドック岸壁工事」でシンガポール進出の第一歩を踏み出した後、「チャンギ国際空港用地造成工事」、「ジュロンアイランド埋立工事」などの大規模な埋立工事を受注しました。現在、シンガポールの面積は約710km<sup>2</sup>（東京23区よりやや大きい）ですが、埋立前の面積は554km<sup>2</sup>で約22%にあたる156km<sup>2</sup>が埋立地です。そのうち当社は60km<sup>2</sup>超、国土の約1割、埋立地の約4割を施工しました。



当社の埋立実績  
※地図は当社の埋立面積の集計時に作成したものです。  
※埋立計画はシンガポール国家開発省2013年1月発表資料を参照しています。

その他土木分野では、港湾物流の一端を担う「パシルパンジャン・コンテナターミナル」、陸上土木の「大深度下水道トンネル」などこの国の発展を支えてきたインフラ整備に深く携わっています。

建築分野では、故黒川紀章氏設計の「ウィロックプレイス」をはじめ、「シンガポールポストセンター」、マリーナエリアのランドマークとなった「エスプラネードシアターズオンザベイ」と「アートサイエンスミュージアム」、建築家の伊東豊雄氏が設計した商業施設「VivoCity」や、超高層複合施設「ION オーチャード&オーチャードレジデンス」などを手掛けました。

## これまでに築いた信頼をもとに、 シンガポール No.1 コントラクターへ

シンガポールは、今や国民一人当たりのGDPで世界第8位となり、「アジアの奇跡」と呼ばれる発展を遂げました。当社はこれまでインフラ整備に深く携わり、数々の難工事を克服することで良好な信頼関係を築き上げてきました。今後も培った貴重な経験と技術力を活かして、シンガポールの繁栄にさらなる貢献をしていきます。



ウィロックプレイス



チャンギ国際空港用地造成

## ジュロンアイランド 3B 埋立工事

2001年竣工



シンガポールの南西部に位置する7つの島を一つに繋げ、一大ケミカルアイランドを整備する事業の一環。当工事では埋立面積約980ha(当時の国土645.5km<sup>2</sup>の約1.5%に相当)を施工した。当社はこのプロジェクトの各期工事を受注しており、今なお進行中である。

## エスプラネードシアターズオンザベイ





シム・リム・スクエアビル



チルトンパークコンドミニアム

## シンガポールの 良きパートナーとして

今年、当営業所はシンガポール進出50周年を迎えます。これもひとえにお客様、政府関係や各種機関の方々、地域の皆様のご協力、当社の先輩方のご苦勞の賜物です。深く感謝いたします。

私が最初にシンガポールに赴任したのは1989年でした。当時はまだ高層建築も少なく、古い町並みが残っていたことを記憶しています。その後、日本国内転勤を経て1996年に再赴任しましたが、超高層ビルが立ち並ぶオフィス街や観光地のホテル群などを見て、様変わりした景色に驚かされました。

この18年間を振り返ると、数々の大規模な土木工事やランドマークとなる建築工事の受注など、現在のシンガポールにおける五洋建設の地位を確立する様々な出来事がありました。

今やシンガポール No.1 コントラクターを目指せるまでになった過程は、当社の得意分野である海上土木工事からスタートして、陸上土木工事、建築工事へと成長をしてきた歴史でもあります。

最近のシンガポールも目覚ましいスピードで、成長、発展し続けています。我々も、これからさらに5年、10年、そして50年後も“Penta-Ocean”の愛称で親しまれるシンガポールのパートナーでいられるよう、変革、成長を続けていきます。



シンガポール営業所長

山下 一志

## シンガポールでの受注年表

(数字は受注年度)

1960	1963年	ジュロン造船所
	1967年	H.D.B 住宅基礎工事
1970	1974年	イーストコースト埋立
	1975年	チャンギ国際空港用地造成
	1976年	シンガポール石油化学工場敷地造成
1980	1980年	エッツ・シンガポール棧橋
	1983年	シム・リム・スクエアビル チュアス埋立
	1985年	ボンゴール埋立
	1989年	チャイナタウンポイント
1990	1991年	ウィロックプレイス マリナーベイ地区埋立
	1992年	チルトンパークコンドミニアム
	1993年	パシルパンジャン・コンテナターミナル第1期
	1996年	シンガポールポストセンター
	1998年	MRT 東西線 EXPO 駅 エスプラネードシアターズオンザベイ ジュロンアイランド3B埋立
	1999年	大深度下水道トンネル
2000	2000年	ジュロンアイランド4期/チュアス埋立
	2003年	VivoCity
	2006年	ION オーチャード&オーチャードレジデンス
	2007年	パシルパンジャン・コンテナターミナル第3期・4期 アートサイエンスミュージアム
	2008年	マリナー高速道路485工区
	2009年	インターナショナルクルーズターミナル
2010	2010年	マウントエリザベスノヴィナ病院 国立大学病院メディカルセンター
	2011年	MRTダウンタウン線933工区
	2012年	チャンギ総合病院
	2013年	MRT トムソン線 ウッドランズ・ノース駅
	2014年	MRT トムソン線 シン・ミン駅

### 2002年竣工

ドリアンのような外観で世界的に有名な国立アートセンター。交通量の多い道路とシンガポール川に面しているながらも、コンサートホールでは騒音を一切遮断した超静寂空間を実現した。

シンガポールだけでなく、世界の文化水準を高める重要な施設となった。

### 大深度下水道トンネル

### 2005年竣工



下水道トンネル整備事業として、地下35～45mの深さに、内径6m、延長7.7kmの巨大なトンネルを施工。一台の密閉型シールド(土圧式シールド)での掘削距離は、当時世界最長であった。

硬質地盤と軟質地盤が並存する難所でありながら、平均日進15mという高速施工を2年間維持した。

# シンガポールの未来への貢献

グローバルな経済成長が続くシンガポールでは、今なおインフラ整備が進んでいます。当社もこの国のさらなる可能性を広げるために、チャレンジ精神を発揮して工事に取り組んでいます。ここでは、最近の事例として「マリーナ高速道路485工区工事」と「チャンギ総合病院建設工事」を紹介します。

## プロジェクト1 マリーナ高速道路485工区工事

2013年12月、開発が進むマリーナベイエリアの南側に、陸上交通ネットワークの大規模な改善を目的としたマリーナ高速道路（以下 MCE）が開通しました。当高速道路は全長5.3km、そのうち3.6kmが地下トンネルとなっています。当社が担当した485工区は、シンガポールで初の海底トンネル420mを含む、全長700mのトンネルとなっており、海面から約20mの深さに上り・下り合わせて10車線の巨大なトンネルを設計施工で構築しました。

### 河川を締め切る難工事に挑戦

485工区の近傍にはマリーナバレッジと呼ばれる河口堰があり、施工中は施設の機能に影響を与えないように細心の注意が必要となりました。また、大雨などの際には堰に設けられた水門が開き、内側の水が放流されるため、この放流を妨げないように工事中は最低150mの放流幅を確

保するように要求され、ステージ1とステージ2の2段階に分けて施工を行いました。トンネルの構築は、海を鋼管矢板で締め切って行うため、直径1.4mの巨大な鋼管矢板を海底の地中深くまで打設し、工事終了後にはその鋼管矢板を引き抜くという、世界的にほとんど例のない難工事となりました。世界最大のパイプロハンマーなど超大型の機械を使用するとともに、様々な施工方法を駆使し、無事に工期限内に工事を完了することができました。

### 技術+αの信頼

MCEの開通式典では、国務大臣より「485工区の海底トンネルが当トンネルの工事の中では最もチャレンジングであり、またその困難を見事に乗り越え、開通を迎えることができた」と祝辞をいただきました。また、人材開発省と安全衛生評議会がシンガポール全産業を対象とした「職場安全衛生表彰」に3年連続で選出され、加えて発注者である陸上交通庁より「安全優良工事」に2年連続で選ばれるなど、技術に加えて安全衛生環境面でも高い評価を受けました。



①② 河川の放流を妨げないよう、150mの河口幅を確保しながら2段階に分けて施工 ③ 鋼管矢板の引き抜き状況。世界最大のパイプロハンマーを導入 ④ 仮締め切り内の止水状況 ⑤ 開通前の海底トンネル。片側5車線の道路で増加する交通量に対応



- ①「チャンギ総合病院」完成予想図
- ②2014年4月末の工事全景。8階から屋上階の躯体構築中
- ③シンガポールでの病院建設の第一歩となった「マウントエリザベスノヴィナ病院」
- ④構造に大きな特徴のある「国立大学病院メディカルセンター」
- ⑤BIMを活用して精度の高い不整合チェックを行う



## プロジェクト② チャンギ総合病院建設工事

シンガポールでは、人口増加と高齢化による医療ニーズの増大に応えるため、最新鋭の医療設備を完備した病院の建設が相次いでいます。チャンギ総合病院は、政府が進める医療政策「Healthcare 2020」の中で東部地域医療の中核となる医療施設に位置付けられています。当病院を建設することにより、隣接する病院と連携し、救急からリハビリを含めた長期療養の患者まで幅広く対応できる、当国初の新しい病院施設が誕生します。また自然換気、ソーラーシステムなども導入し、建築建設庁のプラチナムグリーンマークを受賞した環境に配慮した建物となります。

### 実績で築き上げた信頼

現在、シンガポールにおいて当社が注力している分野の一つが病院建設です。2010年に病院建設の足掛かりとして受注した「マウントエリザベスノヴィナ病院」は、2ha

の敷地に14階建の300床を超える大型病院で、延床面積約7万4,000㎡の規模ながら約2年の工期で完成しました。その後、「ジュロン総合病院地下工事」に続いて受注した「国立大学病院メディカルセンター」は、地下駅舎の上層部にメガトラスを架構する工法で話題を呼び、2013年に竣工しました。こうした実績を踏まえ、2012年に病院建設4件目となる「チャンギ総合病院」の受注に至りました。

### 将来を見据えた取り組み

シンガポールでは、政府主導でBIM※の導入が進められており、建築確認申請に関しては、2015年までに段階的にBIMによる提出が義務付けられます。当工事では、着工時からBIMを本格的に導入し、実務を磨きながら、今後他のプロジェクトへ水平展開できるようにプラットフォーム作り、人材育成に取り組んでいます。

※BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）  
3次元モデルを活用し、建物の設計・施工・維持管理までの情報を共有できるツール。特に工事関係が多岐にわたる大型物件では、プロジェクト全体を統括することができる。

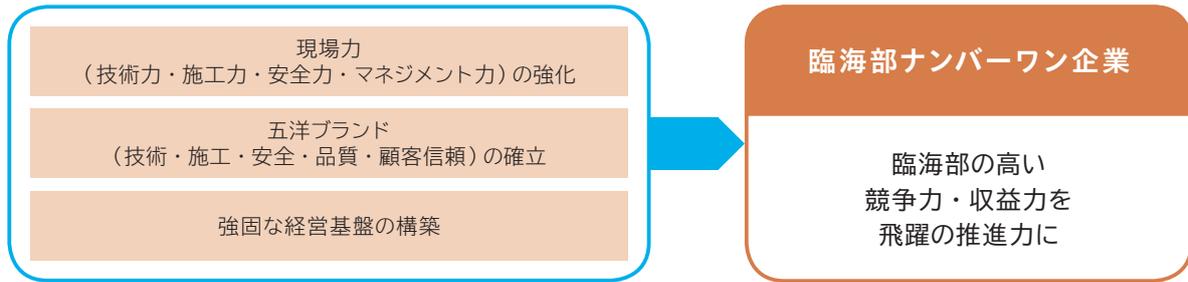
# 中期経営計画（2014～2016年度）

当社グループはこのたび、2014年度を初年度とする3カ年の「中期経営計画（2014～2016年度）」を策定いたしました。

## 中期経営計画（2014～2016年度）の概要

### 基本方針

#### 高品質で安全なものづくりを通じた顧客信頼・社会貢献の追求



### 基本戦略

1. 技術立社の推進 ～原点に戻って現場力を高める	<ul style="list-style-type: none"><li>● 現場力（技術力、施工力、安全力、マネジメント力）の総点検、再強化</li><li>● 総合評価、提案型営業で勝つための総合力（営業力、技術力、施工力、コスト競争力）の強化</li></ul>
2. 五洋ブランドの確立 ～臨海部ナンバーワン企業の真価を発揮する	<ul style="list-style-type: none"><li>● 臨海部の「高い競争力」を活かした事業展開：得意分野・エリアの強化を核として、周辺分野に事業拡大</li><li>● 臨海部の「優位性」につながる技術力の強化：ブランド技術の開発と改良、新しい技術の開発・導入</li><li>● ポスト2020を見据えた事業展開：建設発生土リサイクル・土壌汚染関連、海域環境改善、洋上風力等</li></ul>
3. 経営力・組織力の強化 ～経営戦略を浸透させる	<ul style="list-style-type: none"><li>● 利益重視の徹底：受注時の赤字排除、施工時の品質・安全トラブルの排除</li><li>● 組織的な営業、工事の推進：組織の垣根を越えた総合力を発揮できる事業推進体制の構築</li></ul>
4. 強固な経営基盤の構築 ～将来の飛躍に向けた足固め	<ul style="list-style-type: none"><li>● 財務体質の更なる強化：資本の充実、事業拡大局面での機動的な資金調達</li><li>● 優れた人材の確保・育成：若手の早期戦力化と多様な人材活用（シニア、キャリア採用、女性等）</li><li>● グループとしての競争力強化：グループ全体の相互連携によるシナジー効果の発揮</li></ul>

### 事業環境

建設業を取り巻く国内の事業環境は、政府の財政政策・成長戦略による公共投資の拡大、企業収益の改善を背景とする民間設備投資の回復基調の継続、東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定などにより大きく好転しています。また、当社が主に事業展開している東南アジアでは急速な経済成長に伴う、大型のインフラ整備が多数計画されており、継続的な市場拡大が見込まれます。一方、資材価格・労務費の高騰、技能労働者不足、厳しい受注競争の継続などの懸念はありますが、中期的には好調な事業環境が続くものと期待されます。

### 中期経営計画（2011～2013年度）の振り返り

先の中期経営計画（2011～2013年度）では、業績については受注高、完工高、当期純利益ともに最終年度目標を

達成いたしました。また、経営基盤の強化については、継続的な利益の計上により自己資本に厚みが増したことで、企業評価が向上し、金融収支の大幅改善、資金調達の多様化を実現できたことは今後につながる大きな成果です。

### 新・中期経営計画（2014～2016年度）

新しい中期経営計画（2014～2016年度）では、「高品質で安全なものづくり」重視の基本原則を徹底しつつ、「臨海部ナンバーワン企業」の真価を発揮すべく、現場力の強化、五洋ブランドの確立、強固な経営基盤の構築に取り組んでまいります。今後も、「臨海部ナンバーワン企業」としての高い競争力と収益力を飛躍の推進力として企業価値向上に邁進してまいります。

## 主要経営目標

### 主要連結数値目標 (2016年度)



2013年度実績

99億円

120 億円  
以上



2013年度実績

92億円

110 億円  
以上



2013年度実績

38億円

50 億円  
以上



2013年度実績

22.3%

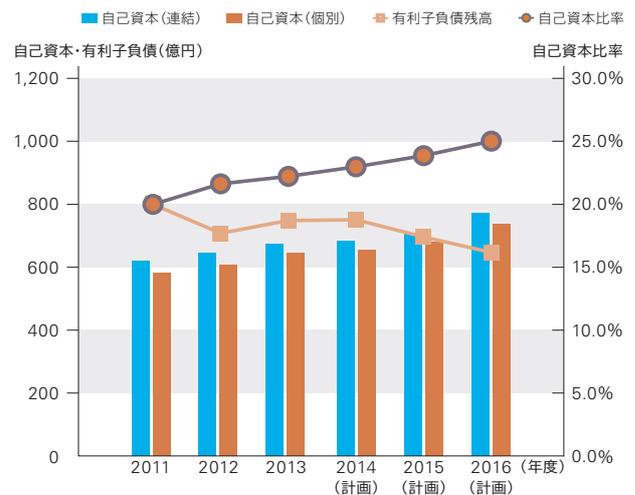
25 %  
以上



2013年度実績

0.6倍

0.5 倍  
以下



## 部門別の目標と基本戦略

### 土木部門

#### 2016年度目標 (個別)

- 受注高 1,450億円
- 完工総利益率 11% 以上
- 営業利益 80億円

#### 基本戦略

現場力・技術力の再強化と好調な建設需要をとらえた事業拡大

### 建築部門

#### 2016年度目標 (個別)

- 受注高 1,300億円
- 完工総利益率 5% 以上
- 営業利益 10億円

#### 基本戦略

得意分野・エリアの営業力・現場力の強化による営業利益の拡大

### 国際部門

#### 2016年度目標 (個別)

- 受注高 900億円
- 完工総利益率 4% 以上
- 営業利益 30億円

#### 基本戦略

技術力強化によるアジアのリーディングコントラクターとしての地位確立

# 財務・非財務ハイライト—主要業績指標—

## 財務状況（連結）

		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
受注高 ※単体 <b>グラフ1</b>	(百万円)	257,055	275,381	296,512	280,305	446,664
売上高 <b>グラフ2</b>	(百万円)	324,781	302,256	328,004	349,839	381,182
営業利益	(百万円)	10,799	9,782	8,982	6,463	9,896
経常利益 <b>グラフ3</b>	(百万円)	7,733	7,431	7,448	6,559	9,159
当期純利益 <b>グラフ4</b>	(百万円)	1,746	2,163	1,622	2,029	3,762
総資産額	(百万円)	294,245	286,224	311,917	296,726	301,626
純資産額 <b>グラフ5</b>	(百万円)	54,465	60,460	62,385	65,110	67,493
有利子負債額 <b>グラフ6</b>	(百万円)	85,839	78,671	81,170	70,939	74,938
D/E レシオ(ネット) <b>グラフ6</b>	(倍)	0.5	0.5	0.3	0.3	0.6
D/E レシオ	(倍)	1.6	1.3	1.3	1.1	1.1
1株当たり純資産額	(円)	221.59	211.44	218.19	227.63	235.53
1株当たり当期純利益	(円)	7.11	8.50	5.67	7.10	13.16
自己資本比率 <b>グラフ5</b>	(%)	18.5	21.1	20.0	21.9	22.3
自己資本純利益率	(%)	3.3	3.8	2.6	3.2	5.7
株価純資産倍率	(倍)	0.6	1.0	1.2	1.0	1.5
株価収益率	(倍)	18.1	24.4	46.7	33.1	26.7
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	31,339	1,917	26,739	8,333	△14,263
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	5,506	△9,143	△11,585	△10,466	△7,310
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△19,507	△3,242	1,738	△11,058	3,165
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	55,931	45,662	62,712	49,927	31,941
設備投資額	(百万円)	3,097	9,524	11,772	9,949	8,456
減価償却実施額	(百万円)	3,950	3,522	3,701	4,306	4,662

※ D/E レシオ(ネット) = (有利子負債 - 現預金) ÷ 自己資本(純資産額 - 少数株主持分)

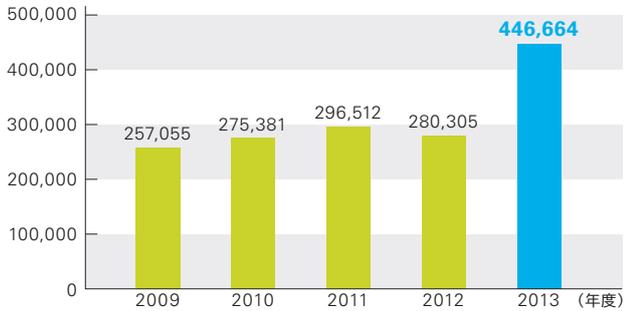
※ D/E レシオ = 有利子負債 ÷ 自己資本(純資産額 - 少数株主持分)

※ 設備投資額、減価償却実施額は有形固定資産と無形固定資産の合計値

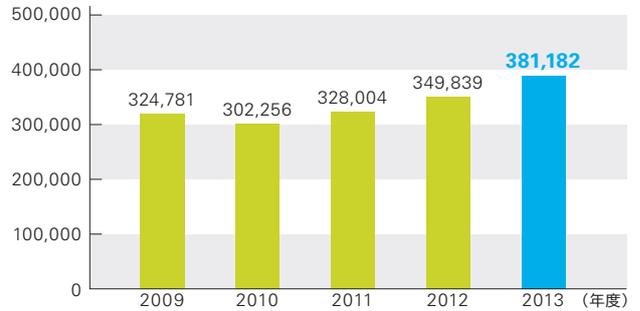
## 環境的・社会的側面データ（単体）

		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
<b>環境</b>						
CO <sub>2</sub> 排出量/原単位 <b>グラフ7</b>	(t-CO <sub>2</sub> /億円)	52.7	51.3	46.4	56.4	46.6
<b>社員</b>						
従業員数 <b>グラフ8</b>	(人)	2,674	2,390	2,391	2,386	2,390
平均年齢	(歳)	43.2	42.2	42.4	42.6	43.1
平均勤続年数	(年)	19.6	18.6	18.7	17.9	19.2

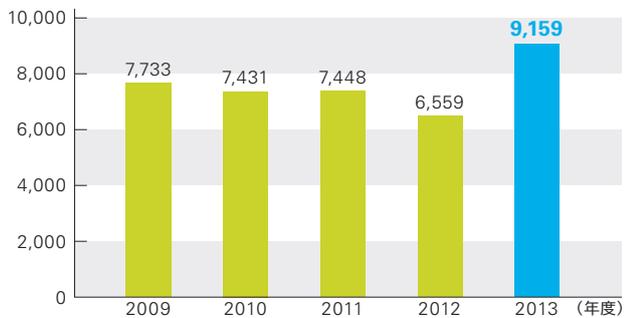
① 受注高 (単体) 単位: 百万円



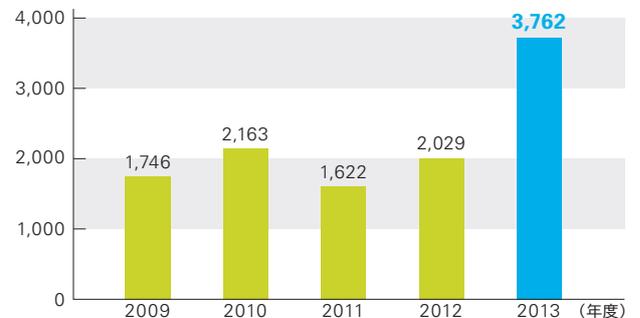
② 売上高 単位: 百万円



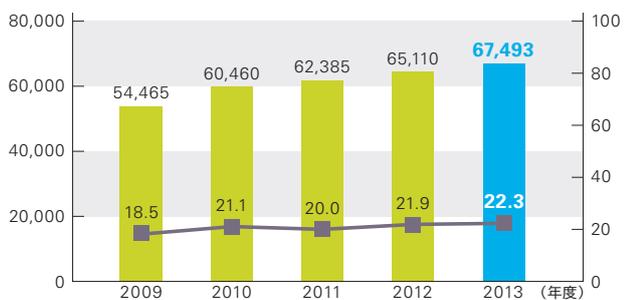
③ 経常利益 単位: 百万円



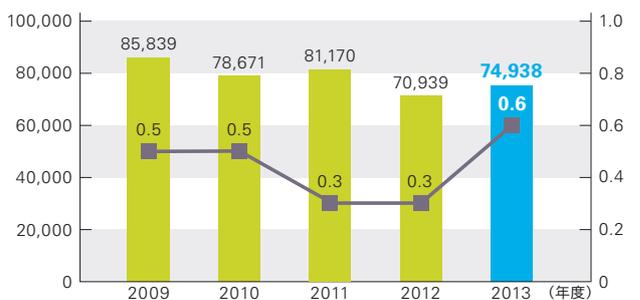
④ 当期純利益 単位: 百万円



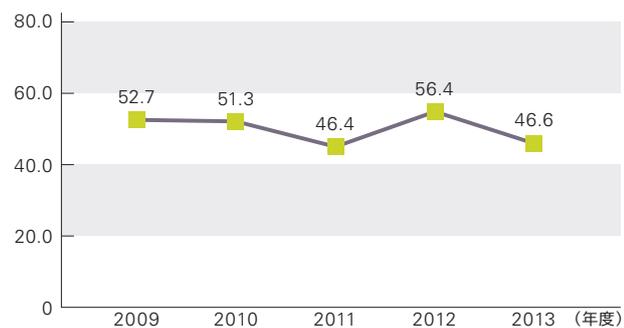
⑤ 純資産額 単位: 百万円 | 自己資本比率 単位: %



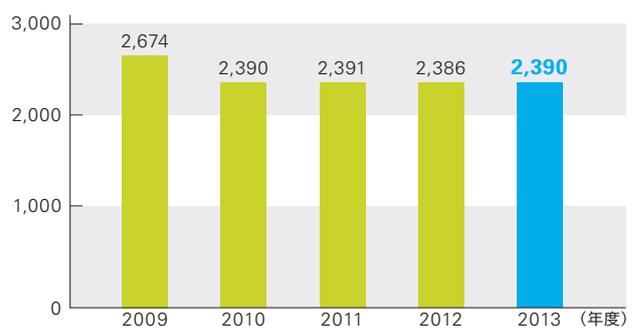
⑥ 有利子負債額 単位: 百万円 | D/Eレシオ(ネット) 単位: 倍



⑦ CO<sub>2</sub> 排出量 / 原単位 (単体) 単位: t-CO<sub>2</sub> / 億円



⑧ 従業員数 (単体) 単位: 人



# 2013年度の竣工工事

ここでは、社会インフラや地域発展などに寄与した工事を紹介します。

## 国内土木部門

### 平成23年度気仙沼漁港 — 6m 栈橋災害復旧工事

宮城県

宮城県の気仙沼漁港において、東日本大震災で大きく被災した栈橋を撤去し、新たな栈橋を設置しました。震災の影響により作業員の手配や資機材の調達など課題がありましたが、全国有数の水揚げ量を誇る漁港であることから、早期復旧が求められていました。水産業復興のシンボルとなるよう、無事に工事を完成させています。



### 国道42号有田大橋耐震工事

和歌山県

和歌山県の有田川河口にある有田大橋は、建設から約30年が経過しており、緊急輸送道路と位置付けられていることから改修の必要性がありました。当工事では、橋脚の耐震補強を行うとともに、劣化した部分を補修しています。近くに箕島漁港があるため、厳しい基準で水質汚濁対策を行うなど、環境に配慮した施工を行いました。

## 国内建築部門

### TERASO 2期ビル

福岡県

JR博多駅近くに、「TERASO (テラソ)」の2棟目となる新ビルがオープンしました。10階建ての複合商業ビルに、発注者である西部ガス株式会社の大型ショールームやレストラン、オフィスビルなどが入居しています。隣接地に建つ1期ビルも2011年に当社が完成させており、ビジネスに活気づくエリアが誕生しています。





## 国際部門

### ホンダ倉庫 インドネシア

インドネシアのジャカルタから東へ約60kmの工業団地に、本田技研工業株式会社の自動車部品をストックする倉庫が当社の設計・施工にて完成しました。短工期や雨季に留意した工程管理を徹底して行い、日本人スタッフ、ローカルスタッフが丸となって取り組んだことで、無事故・無災害で竣工することができました。



### カイトッククルーズターミナル 香港

旧カイトック空港の跡地に建設された、世界最大級の豪華客船が2隻同時に停泊できるクルーズターミナル。「クルーズ観光のハブ」を目指し、香港10大インフラプロジェクトの一つとして整備されました。海に突き出た空港跡地の片側に、新たに長さ850mの棧橋を陸上から築き上げ、また、客船が停泊できるよう泊地浚渫も行いました。



### アイア株式会社本社ビル 東京都

渋谷区に、アパレル事業などを展開するアイア株式会社の本社ビルが完成しました。「トレンドの発信地に新しいパワースポットを出現させる」というコンセプトのもと設置された高さ60mを超えるダブルスキンカーテンウォールは、天空に上昇する光のラインを表現しています。青山通りに、美しい景観がひとつ加わりました。

# マネジメント報告

## コーポレート・ガバナンスについて

当社グループでは、経営の健全性・透明性および遵法性を確保し、会社の永続的な成長・発展を図るため、独自のコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。

また、本体制の充実を図るべく「企業経営に関する監査・監督機能（監査役監査・内部監査・会計監査など）の強化」、「コンプライアンスの徹底」などを最重要施策として実施しています。

### ■ コーポレート・ガバナンス体制

#### 経営・業務執行

経営に対する監督機能の強化を図るため、1名の社外取締役を選任し、監査役会、内部監査・内部統制担当役員などと連携を図っています。また、取締役会の活性化と意思決定の迅速化を図り、業務執行の責任を明確にするため執行役員制度を導入し、役員候補や役員報酬案を取締役に答申する人事委員会を設置しています。取締役会は原則月2回の開催とし、重要事項について活発な討議のうえ、意思決定を行っています。取締役、執行役員の報酬は、そ

の責任を明確にするため、業績と報酬が連動する役員業績評価制度を導入しています。

また、当社は監査役制度を採用しており、3名が社外監査役です。監査役は取締役会に常時出席しているほか、執行役員会議など社内の重要会議にも積極的に参加し、取締役の職務執行を十分に監視する体制を整えています。（社外取締役、社外監査役の人数は、2014年3月31日現在）

#### 内部統制・リスク管理

リスク管理の徹底、法令遵守、業務の適正かつ効率的な遂行を確保するため、取締役会において内部統制基本方針を策定し、内部統制システムを整備しています。

本所に設置したリスクマネジメント委員会では、リスクマネジメント基本方針を策定し、各業務執行部門は同委員会の方針に従い、研修の実施などにより、コンプライアンスの推進を図っています。また、コンプライアンスリスクに限らず、財務リスク・施工リスク・BCP(事業継続性)リスクなど、会社が事業活動を継続する上で発生する様々なリスクについて、リスク発生の防止およびリスク発生に伴う会社損失の最小化を図る取り組みも行っています。

## コンプライアンスについて

当社グループでは、「コンプライアンス基本方針」に基づき、グループ各社にコンプライアンス委員会を設置し、グループ全社の役職員が法令遵守はもとより、社会的規範・企業倫理を尊重し、常に誠実な姿勢で行動できるよう取り組んでいます。

### コンプライアンス基本方針

五洋建設グループの全役職員は、事業活動においては法令を遵守し、社会規範・倫理を尊重することはもとより、常に誠実な姿勢で行動します。特に工事入札においては、独占禁止法その他関係法令を遵守し、公正かつ自由な競争を実践します。

### ■ コンプライアンス推進の取り組み

当社グループでは、各種社内研修などを通じて、またグループ内イントラネット上での情報発信を通じて、役職員が日々多忙な業務の中においても、個々を取巻く複雑な「法令など」を適正に遵守できるように取り組んでいます。

#### グループ全社での方針共有、研修計画

毎年度はじめに、当社本社各部署および全支店、並びにグループ各社において、リスク対応方針・年間研修実施計画を策定しています。

また毎年、関連会社コンプライアンス委員会事務局長会議を実施し、グループ各社の紛争懸念案件や会社規則の制定・改廃などに関する情報交換など、連絡を密にすることで、グループ全社でのコンプライアンス意識の共有化を図るよう努めています。

#### 「適正入札」を徹底するための取り組み

当社グループでは、違法行為およびその疑念を抱かれるような行為については「しない・させない・見過ごさない」ことを明言し、全役職員に対して、独占禁止法をはじめとする法令違反行為を二度と起こさないために、社内外への決意表明として「談合決別宣言およびコンプライアンス宣言」を発しています。また、その内容を確実に実行するために、全役職員に公共工事などの入札に関する適切な知識を教える取り組みや、各支店 CSR 委員会による入札手続きの適正性監査などを実施しています。

# 労働安全衛生

## 労働安全衛生について

### 安全衛生・品質・環境方針

五洋建設株式会社は、安全衛生、品質及び環境保全に十分に配慮した建設活動を推進するとともに、関係法令及びその他の要求事項を遵守し、全てのステークホルダーに信頼される魅力ある企業として持続的に発展する企業を目指している。

当社の経営理念の下、人間尊重を基本姿勢として、安全最優先の施工により、すべての災害防止に全力を傾注し、顧客が満足感を持てる製品及びサービスを提供するとともに、地球環境に配慮したものづくりを通じて、社会的信用を確立する。

労働安全衛生、品質及び環境マネジメントシステムを全員参加で運用するとともに、継続的にシステムを改善して効率的で効果的な業務を推進する。この方針に基づき、次の指針を展開する。

### 安全衛生活動指針

1. 労働災害の防止はもとより公衆災害を含めたすべての災害防止に努める。
2. 職業性疾病を防止するとともに、心と体の健康づくりを推進し、快適な職場環境を形成する。
3. 社員および協力会社の連携のもと安全衛生活動を実施し、水準の向上を目指す。

※品質活動指針、環境活動指針はHPに掲載しております。

### 継続的な安全衛生管理の取り組み

当社は建設業界の中でも早くからコスモス(COHSMS)<sup>※</sup>認定を取得し、五洋建設労働安全衛生マネジメントシステム(ペンタコスモス(PENTA-COHSMS))による継続的な安全衛生管理を実施しています。

また、社員に対する安全技術の伝承にも力点を置いており、体系化された教育計画に基づき安全衛生管理教育を実施しています。さらに、これまでに発生した災害の再発防止対策を水平展開する取り組みや、協力会社とともに実施するリスクアセスメントなどを通じて、常に、労働・公衆災害の予防・減少に努めています。

※ COHSMS：建設業労働安全衛生マネジメントシステム

### 全社の安全衛生目標・計画

安全テーマ	死亡災害・重大災害ゼロの実現と労働・公衆災害の減少
安全スローガン	安全最優先に向けて「基本ルールの徹底と確認の励行 ヨシ！」
衛生テーマ	職業性疾病ゼロの実現と私病の減少
衛生スローガン	健康の保持・増進に向けて「職場における健康管理活動の強化 ヨシ！」
重点取組事項	特定災害「墜落・転落災害」、「重機・クレーン災害」の削減

## 災害防止活動

### 墜落災害防止のための取り組み

当社では『墜落災害ゼロ』を目指し、作業員が安全帯を使用することを徹底するため、高所作業で安全帯不使用者が発覚した場合はその場で退場を宣告する「安全帯不使用者一発退場制度」<sup>※</sup>を導入しています。

※退場を宣告された作業員は再度安全教育を行ったのちに現場復帰。

### クレーン災害防止のための取り組み

『クレーン災害ゼロ』を目指し、作業所全員で実際にクレーンを使用して、「3・3・3運動」<sup>※</sup>を取り入れた玉掛実地教育を実施しています。

※「3・3・3運動」…【玉掛したら吊り荷から3m離れ】、【地切りは30cmで一旦停止】、【地切りして3秒後に巻き上げる】を作業所全員に周知することで、玉掛作業の危険性を認識させる運動。

### 現場コミュニケーションの充実

工事に関係する全員が名前呼び合うことで仲間意識を深め、安全で健康なイキイキとした職場風土を作り『無事故・無災害・疾病ゼロ』の達成をはかる「思いやり声かけ運動」の推進に取り組んでいます。

## その他の活動

### <パトロール>

- 社長パトロールの実施
- 中央安全衛生環境委員会による安全衛生パトロールの実施
- 重点支援現場に対する安全衛生パトロールの実施
- 労務安全協議会連合会合同パトロールの実施

### <教育>

- 階層別研修での安全衛生教育の実施
- 統括安全衛生責任者(再)教育の実施
- 職長・安全衛生責任者教育の実施
- 経営者セミナーの実施

## 沖ノ鳥島にて発生した事故を受けて

2014年3月30日、沖ノ鳥島で施工しておりました栈橋設置工事におきまして、重大な事故が発生いたしました。海洋土木のリーディングカンパニーとして、この事故を教訓として、改めて確かな安全と品質の確立に努めてまいります。

## CSR 活動トピックス

## 良質な社会インフラ建設による社会貢献

「良質な社会インフラの建設こそが最大の社会貢献」と考える当社では、2013年度も確かなモノづくりを約束する企業グループとして、技術開発や設備投資に積極的に取り組んできました。また、徹底した施工管理のもと、品質に関わる数々の賞を受賞することができました。

今後も社会的背景を踏まえて、良質な社会資本整備に貢献していきます。

## 2013年度の主なできごと

シンガポールで新造している  
自航式ポンプ吸込船の進水式を開催

写真1

地盤改良工法「シエル型浸透固化処理工法」を開発

「真壁伝承館」が第54回 BCS 賞を受賞

写真2

「4D ソナーによる施工管理システム」で  
国土技術開発賞優秀賞を受賞

写真3

… 他

## 人権・労働安全衛生・環境

当社は、関係するすべての人々の人間尊重を基本姿勢としています。

社員や協力会社の能力が十分発揮でき、安全最優先で働きやすい職場環境を目指し、制度の導入や見直しを進めるとともに、各種教育・研修を実施しています。

また、地球環境に配慮したモノづくりも重要な課題と位置付け、環境負荷を生みださない施工にも取り組んでいます。

## 2013年度の主なできごと

「人権啓発トップ層研修会」を開催

写真4

「五洋建設優良職長制度」を導入

「BrilliaWELLITH 月島建設工事」が  
厚生労働大臣奨励賞を受賞

写真5

「城山トンネル建設工事」が日建連の  
公害防止・建設副産物管理優良事業場として受賞

写真6

… 他

## ステークホルダーとのコミュニケーション

当社ではステークホルダーの皆様との交流や対話を大切にした社会貢献活動を展開しています。地域のイベントへの協力、ボランティア活動、現場や技術研究所の見学会など多岐にわたって行っています。様々な活動を通じて、ステークホルダーの皆様から信頼され、支持され続ける企業グループを目指してまいります。

## 2013年度の主なできごと

伊豆大島の台風災害支援としてボランティアを派遣

写真7

グループ会社「警固屋船渠株式会社」が  
進水式に地元の小学生を招待

写真8

東京湾にて投資家・アナリスト見学会を開催

写真9

本社・家族参観日を開催

写真10

… 他

1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



## 五洋建設に期待すること



早稲田大学理工学術院教授  
早大複合災害研究所長

柴山 知也氏

1995年1月の阪神淡路大震災、2011年3月の東日本大震災による津波と福島第一原子力発電所の事故は、日本の建設産業に2つの大きな変化を迫ることになった。1つは、「建設事業に対する社会的関心の変化」である。明治維新以来146年にわたって継続的に進められ、1960年代以降の高度経済成長期に集約的に行われてきた建設事業は、道路や港湾などの産業基盤に偏重した社会基盤投資であった。それが近年は、将来の津波や高潮に備えて沿岸域で急速に進められている市民生活を守るための防災事業、あるいは次世代の生存を守るための地球規模での視点を持った環境保全事業へと社会の関心は移りつつある。もう1つは、「建設事業の執行過程における変化」である。従来の建設事業の執行過程は、近代社会を特徴づける社会的分業の下に、技術者職能集団の中だけで閉じた形で遂行され、技術的な事項の取り扱いには建設会社や技術者集団に任されていた。しかしながら、近年では、建設事業の立案段階から建設後の運営に至るまで、建設の全プロセスの中に使用者や生活者の視点を取り込む一方で、専門家集団の側から社会に対して積極的に建設事業の意義を説明し社会の信頼を得るなど、社会的な合意を形成することが求められるようになった。

上述の変化は、大震災によって引き起こされた日本固有の変化というよりも、建設事業が「ポストモダン社会」に

適応する過程で要請されつつあった変革が大震災によって顕在化した結果と見ることができよう。「ポストモダン社会」とは、近代が終わった後の社会を言うが、人々の価値観が多様化し、社会集団間の壁が低くなった現代的状況を指す。こうした「ポストモダン社会」で建設事業を執行する以上、建設事業に関わる一連の過程を変化しつつある社会的文脈の中に置き直して、建設事業を多角的な視点から捉え直すことが必要になったのも必然かもしれない。

日本を含めて、世界の国々は急速な社会変動にさらされており、技術者に求められる役割も変化している。企業の社会的責任を果たしながら、社会と寄り添う経営をしていくためには、このような変動を敏感にとらえ、変化に応じた柔軟な体制で対応をしていく必要がある。そのためには、従来、有用であった工学的な知識や技術的・経営的な能力の他に、社会学・経済学などの社会科学の理論枠組みや知見を合わせ用いて、社会の変動を的確にとらえる鋭敏さが必須となる。

新しく就任された清水琢三社長が率いる五洋建設には、現代社会のポストモダンへの潮流を敏感に把握して、専門家集団として市民社会への責任を果たして行って頂きたいと期待している。

### ご意見を 受けて

「コーポレートレポート 2014」の発行にあたり、柴山先生には貴重なご意見をいただき誠に有難うございました。

当社グループのCSR活動も10年目を迎えています。改めて活動の原点に立ち返り、国民の日々の生活と産業活動に必要なインフラを建設し、社会に貢献してまいります。

この度の柴山先生からご示唆いただきました当社への期待、CSR活動の方向性を再確認するとともに、多様なステークホルダーの皆様との対話を通じて、これからも建設業の使命と責任を果たし、社会とともに持続的に発展、成長していきたいと思っております。

建設業の海外展開が期待されている中、特集では、当社のシンガポール進出50周年の歩みを取り上げ、海外建設事業を通じた国際貢献を紹介させていただきました。

今年度から、従来のCSR報告書の内容に、経営計画の概要や財務情報等も加えたコーポレートレポートに改めました。ステークホルダーの皆様が一層のご利用をいただければ幸いです。



代表取締役(兼)執行役員副社長  
経営管理本部長(兼)CSR推進室長

佐々木 邦彦

## 会社概要

社名	五洋建設株式会社 PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO., LTD.
創業	1896年(明治29年)4月
代表者	清水 琢三
資本金	30,449百万円
売上高	355,926百万円(2014年3月期)
従業員数	2,390名(2014年3月31日現在)
主な事業	建設工事の設計および請負、 その他関連する一切の事業

## 営業ネットワーク

本社	〒112-8576 東京都文京区後楽2-2-8
支店	札幌、東北、北陸、東京土木 東京建築、名古屋、大阪 中国、四国、九州
海外営業所	シンガポール、香港 ベトナム、インドネシア マレーシア、エジプト

## お問い合わせ先 CSR推進室

TEL: 03-3817-7550  
FAX: 03-3814-2864

## コーポレートロゴについて

“創造する心に国境はない”この信念をもとに、世界各地で活躍を続ける五洋建設。これを表現したのが五角形のマークで、太平洋・大西洋・インド洋・南氷洋・北氷洋の5大洋をデザインしました。



## マスコットキャラクターについて

五洋建設のマスコットキャラクター「Mr.PENTA」は長い胴と短い足が愛らしいパセツハウンドがモデルです。名前は五洋建設の英語名「Penta-Ocean」から命名されました。



FSC® 認証紙の使用  
適切に管理された森林の木材を原料にしている紙を使用しています。



間伐に寄与する紙の使用  
この印刷物に使用している紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



水なし印刷  
有機物質を含んだ廃液が少ない、水なし印刷方式で印刷しています。



Non-VOC インキの使用  
VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの環境に配慮した100%植物油インキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。